

妹のアルバイト

東京都日野市万願寺

大西

賢(44)

私が大学生のとき、我が家に大ニュースが流れた。高校生の妹がアルバイトを始めたというのだ。妹は中学時代、いじめに遭って不登校になった。その妹が――。どこでアルバイトしているのかさりげなく訊いてみるが、

「バイト先に来られたらイヤだから」

とって教えてくれない。それでも母を通じて、家から自転車で三十分ほど離れた所にあるスーパーマーケットだと分かった。

妹はだいぶ苦勞しているようだった。いじめの傷がまだ癒えていないうちの就労である。緊張のため、簡単な品出しすらミスを連発してしまい、大事なお金を扱うレジは任せてもらえなかった。

ある日、気になった私は、妹が働いているスーパーに行ってみた。意外な場所に妹はいた。妹は新発売のインスタントコーヒーを試飲させるコーナーにいて、「コーヒーの試飲、いかがですか」

と声を張りあげていたのだ。

物陰からその様子を見ていたが、妹の姿は家庭内のそれとは全く違っていた。顔を真っ赤にして、声を震わせながら試飲を呼びかけていたのだ。だが、試飲する客はほとんどおらず、当然、インスタントコーヒーも売れていなかった。私は妹の姿を見るだけで帰るつもりだったが、彼女の健闘ぶりを見てしまい、タダでは引き返せなくなった。

ゆっくり近づき、試飲の紙コップを一つ、手に取る。

「あ……」

妹はすぐに客が兄だと分かった。だが、ここは職場である。お互い、私語は控えた。妹が注いだ試飲のコーヒーは確かに美味しく、私は商品の一つ手に取り、レジへ向かった。

私の背中に向けて、妹が大声で言った。

「お買い上げ、ありがとうございます」

レジへ向かいながら、私は思った。

このインスタントコーヒー、一生懸命働いた妹にいれてあげよう、と。